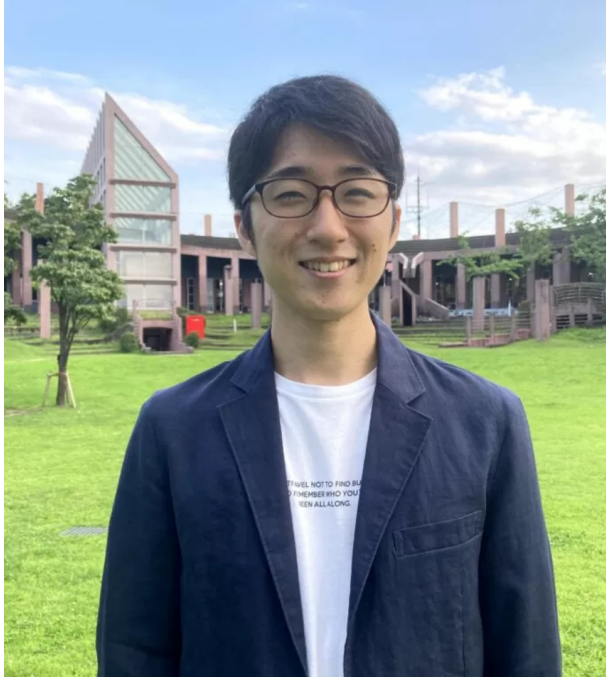


東大毎日塾 塾長 31のQ&A

～受験の本質、教育の未来を語る43分～



東大毎日塾 塾長

内田 悠斗

予備校に通わずに東大に現役合格



ゼロ塾ガイド

【目次】

1. [はじめに\(目的・趣旨\)](#)
2. [塾長の人物像と教育哲学\(Q1～Q4\)-P1～2](#)
3. [東大毎日塾の特徴\(Q5～Q10\)-P2～5](#)
4. [合格実績と成長支援\(Q11～Q16\)-P5～6](#)
5. [指導体制と講師の質\(Q17～Q21\)-P6～8](#)
6. [教育の未来と社会的視点\(Q22～Q27\)-P8～10](#)
7. [最後に\(Q28～Q31\)-P10～11](#)
8. [巻末特典 P11～12](#)

【導入】

- インタビュアー: 渡辺直也([ゼロ塾ガイド](#))
- インタビューイ: 内田悠斗さま([東大毎日塾](#))
- 実施日: 2025年6月4日
- フォーマット: 1問1答×31本
- 趣旨説明: 「受験生と保護者の疑問に、塾長がまっすぐ答える——。入塾検討時に読んでおきたい“心の手引き”」

【はじめに】

東大毎日塾の塾長が答えるQ&Aを制作することで、東大毎日塾とゼロ塾ガイド、双方にとっての信頼性を向上させることが目的です。そのため、一次情報を集めたPDF形式のホワイトペーパーによる情報提供を目的とし制作しました。

このPDF形式のQ&Aを読んでいただくことで、東大毎日塾の理解を深め、塾として付加価値の高いサービスと認識していただければ幸いです。

【1問1答】

■第1章：塾長の人物像と教育観（Q1～Q4）

Q1：自己紹介と教育に関わったきっかけ

一東大在学中の個別指導経験が、原点となった。

東大毎日塾代表の内田と申します。私自身は埼玉県出身で、埼玉県の中学校、高校と通ってきました。公立の高校から東京大学の理科一類に合格し、工学部の機械工学専攻に進学しています。

在学中、教育のバイト「家庭教師」とか「個別指導塾」など様々にやってきた中で、このやり方で本当に大丈夫なのかな？という疑問をずっと感じていて、週1回だけより毎日やるほうがいいんじゃないか、毎日やった方がいいに決まってるじゃないか。

と思い、東大毎日塾を立ち上げたという経緯になっています。その後は1回だけ全く別業界の建設機関でメーカーに就職し、研究開発者をやりましたが、1年で退職し元いた教育業界に戻り今年で5年目になるという経歴です。

Q2：教育における哲学

一徹底的に生徒に寄り添っていく。

哲学として1番大切にしているのは、生徒さんに寄り添っていくということです。やっぱり個別に指導していく1番の意味は、画一的な指導ではなくても、その子にとって最適な指導ができることです。

その生徒さんの性格だったり、レベルであったり、目指してることだったり、あとは保護者様の考えだったり、あらゆることに寄り添って行って、個別最適化をしていくのを1番大事にしています。

目指してることは、受験はあくまで通過点だと捉えて、その先で生徒さんがやりたいことをちゃんとやれるような環境に行ってほしいという思いが、ずっとあります。

高校受験も大学受験も、すごく大事なもので、その後に掴めるチャンスの幅は変わってきます。だから、ちゃんと伝えていきながら、その子にとって最大限努力して行けるところに行けるサポートを、東大毎日塾ならできていると思っています。

あとは、受験で身につくスキル、東大毎日塾で身につくものが、目標から逆算して今やるべきことを考えていく力の学習計画を立てていくんです（今は一緒に立てているんですけど）。

一緒に考えていく力とか、遂行していく力とか、仕組みを作っていく力とか、わからないことは人に聞きながら理解していく力、調べながら理解していく力があります。

これは受験を超えてもずっと大事になってくる力なので、根本的な問題解決能力や目標達成能力、コアな力を身につけてもらいます。大学に進学した先、さらに大学を卒業してから社会人として活躍できる土台を身につけてほしいと考えています。

Q3: やりがいを感じる瞬間

一生徒の成長を感じる瞬間。

生徒さんが何かしらの部分で変わった瞬間は1番やりがいを感じますね。例えば、もともと勉強が続かない生徒さんが、1日1時間でもいいからできるようになったとか。

ある生徒では、「これまでやることがわからなくてずっとモヤモヤしていたんだけど、今後やるべきことが見えてきて、すごくスッキリしました。」という瞬間もあり、生徒の成長を感じる瞬間でした。

小さなところから大きなところで言うと、志望校に合格できたとか、目標としていた英検に合格できたとか、何か生徒さんが目標達成をできた時とか、小さな変化が起こった時はすごくやりがいを感じます。

Q4: 原体験と価値観

元々人に教えるのが好きだった。

原体験としては、元々人に教えるのがずっと好きだったんですね。大学生、高校生、中学生、小学生ぐらいの頃から友達にも教えてきていて、そこでわかるようになってくれたのがすごく嬉しかったです。

なので、せっかくなら東大に受かってその経験を活かせたらと思い、教育系の仕事を始めたのがきっかけになりますね。

■第2章: 東大毎日塾とは？(Q5～Q10)

Q5: 塾の一言紹介

一専属メンターが毎日指導。

名前の通りで、専属でメンターが毎日ついて指導していくという塾です。いわゆる学習管理型のオンラインのコーチング塾になります。授業だけしてもなかなか成績が伸びなくて、授業以外の学習時間に、いかに効果的な勉強をするかが大事なので、そこにフォーカスしています。

大まかに言うと、プランニング、コーチング、ティーチングの3つの指導があり、その生徒さんの学習状況を詳しくヒアリングしながら、まず個別に学習計画を立てていき、やるべきことを明確にしていきます。これは最初に始めます。大体の人がここでつまづいてるからです。

2つ目がコーチング指導で、やるべきことを決めたら、ちゃんとそれをやりきる環境を作ることです。やっぱりここもみんなつまずいて、ついついだらけてしまうとか、3日坊主になってしまうという方がすごく多いです。

なので、そこを自分の意思によらずに仕組みとして強制力高くやりきる環境を一緒につくっていきます。これはどうしても週1だとできないので、毎日やっていくことになります。

3つ目がティーチング指導です。通常、勉強しているとやっているとわからないことがたくさん出てきます。そこでいつでも無制限・質問し放題にしており、疑問は全部解決しながら前に進んでいくという仕組みです。

こういった総合的な指導を包括的に日々やっていくことで、成績を上げていこうという塾になっています。

Q6: 他塾との違い

— 毎日指導が最大の違い。

1点だけ挙げるなら、毎日やることですね。一般的な塾だと週に2コマとか3コマと時間が決まっています。その時間だけ指導するという形ですが、東大毎日塾は授業以外の時間帯でも毎日対応していくというのが1番の違いです。

Q7: カリキュラムのこだわり

— テンプレを使わないカリキュラム。

カリキュラムは完全オーダーメイドで、その生徒さんに最適化していくのが1番の強みと特徴です。塾のカリキュラムや計画の立て方は、2通りあるのが実際のところ。1つは大手の塾に多い「生徒さんに最適化」と塾のカリキュラムが決まっています。

このくらいのレベルの志望校を目指すんだったら、こういう参考書ルートでやっていきましょうっていうのが、最初から決まってるパターンがあるんですね。対して東大毎日塾はそうではなくて、完全オーダーメイドでその生徒さんに合わせて最適化していきます。

学校で使ってる教材とか、これまでやってきたこととか、授業浸透とかも色々ヒアリングしながら最適化していく仕組みです。この場合は結構難しくて、その塾の実力が如実に現れるんです。

逆に、全部決まってるパターン、すでにカリキュラムが塾として存在するパターンだと、大体どんな先生が指導しても同じになるので、品質が安定しやすいんですね。カリキュラムが全部決まっているデメリットとしては、最適化しきれないところがあります。

東大毎日塾は、指導の品質担保の仕組みをしっかり設けています。その上で最大限最適化して生徒さんに合わせています。これがカリキュラムで1番のこだわりポイントです。

Q8: 教材のこだわり

— 市販の教材は様々。

教材については塾独自で作ってるところもありますが、基本的には市販の教材が非常に品質が高いので、その品質が高い教材を組み合わせる形で使ってます。

市販の教材も本当に様々で、出版社によっていいかどうかが変わるっていうことも、そんなにな
いです。そこにこだわり、制限を設けたりとかはないですね。本当にもう幅広く見てます。

講義形式の参考書から、演習形式の網羅系の問題集、さらに基礎だけじゃなく過去問レベルま
で引き上げるものまで。本当に色々な問題集があるので、その中で最適なものを選んでます。

あと、映像事業としてスタディサプリとかのコンテンツも、すごくいいものがあるので、そういうのを
使うこともあります。

Q9: 生徒との接し方

一相手の理解に努める。

コミュニケーションで意識してることは、最初に生徒さんの状況をしっかり把握することです。個別
最適化していく上で、相手のことがわからないと当然いい指導にはならないので、まずは相手の
状況をちゃんと理解できるようにヒアリングを進めていきます。

あとは、生徒の理解度を確認するために、生徒の方から話してもらいます。指導する側から伝え
るだけじゃなくて、生徒側からも話してもらって理解度を確認しています。

Q10: 学習管理のメリット

一質の高い学習習慣が身につく。

一言で言うと、学習習慣が身につく点です。週1で授業をするより毎日やった方が密に
見れるので、強制力も生まれ、質の高い勉強を毎日続けやすくなります。

学習管理型の塾って山ほどありますよね。特にこの5年ぐらいで増えてきたんです。その中で東
大毎日塾は5年以上の運営実績があって、ある程度長く残っている塾です。だから品質を担保す
るための仕組みがしっかり整ってます。

通塾型の学習塾がオンラインのコースを、新しく設置する場合と、オンライン専門でやっていくとこ
ろがあります。東大毎日塾はオンライン専門なので、オンラインの塾として品質を担保するた
めの仕組みがあらゆるところで整ってます。

例えば、スタディプラスを用いて細かく進捗確認を、システム上で管理しています。あとは、チャ
ットでやり取りが行われていないグループを検知して、コーチングがなされていないところを自動
で検知しアラートがでるようにしたりしています。

学習計画シートが規定の文字数以下だったら、アラートが出るようにしたりですね。システム的な
ところで、品質を担保する仕組みがあるっていうのは、見えにくいんですけど、他の塾とは違
うところなんです。

あと、結果を出しているところは、他の塾との違いとしてあげられます。第1志望校の合格率と
か、毎年合格したところをホームページに載せています。そこでも難関大学にも合格者を輩出
して掲載しています。

東大毎日塾は特待生はとっていないので、別に成績が高い子ばかり集めてるわけじゃないん
です。でも、第一志望校合格者も出てますし、そこは見てもらえるといいんじゃないかなと思
います。

また、他の塾と比べると、とことん向き合っていて、丁寧にやり抜いていく塾だと思います。どんな塾も計画を立てますよって言うし、わからないことがあれば質問してくれたら対応しますよって言うし、学習管理していきますよって言うんです。

それは東大毎日塾も同じなんですけど、それをどこまでやりきれんかが実際違うんです。これはもう体験してもらえないとわからないことなので、ものすごく丁寧にやっていくので、来てもらったらわかると思います。

■第3章:合格者のリアル(Q11～Q16)

Q11:印象的な合格エピソード

—東京大学に3年連続の合格者輩出。

東京大学に3年連続で合格者が出たっていうのが、個人的には1番印象に残ってます。塾としては規模感はそのくらいに大きくはない塾なので、毎年そのくらいの合格者が塾からも出てるっていうのが、すごく嬉しかったですね。

Q12:逆転合格する生徒の特徴

—素直さがある人。

特徴としては、指示したことを全部やりきる、素直にやりきる点があります。学習効率を上げるために色々と最適化した計画とか、やり方とかを提案していくんですけど、そこに反発をしたり、やるべきことをやらなかったりする人も中にはいるんですよ。

自分なりのこだわりがある人よりも、言われたことはとりあえず素直に全部やってみる。言われた通りやり方もガラッと変えて、とにかく言われた通りやるっていう人が1番伸びやすいですね。

逆転合格はD判定とかE判定から、半年とか1年経たずに合格という事例があるので、そういう人は素直さがあるっていうのが、1番の特徴かなと思います。

Q13:不登校の生徒への支援

—今ある環境を最大限に活かす。

不登校の場合はインプットが抜けていることが多いので、インプットを目的とした学習参考書や映像授業で、しっかり基礎から進めます。

不登校の場合は自分に自信がないことも多いですが、メリットもたくさんあるんですね。通信制高校もそうなんですけど、完全に自分専用のカスタマイズした計画が進められるので、今の環境を最大限生かしていこうという形で支援しています。

Q14:偏差値40台への支援

—学習習慣を身につける。

偏差値40台からの合格者については、学習習慣がそもそもついてないパターンが大多数なので、学習習慣を身につけることからやります。量を担保して初めて質が生きてくるので、1日の中で細かくスケジュールを決めてます。

何時から何時までは勉強しよう、あとはやりきれるように、スマホを親に預けるとか、いろんなところでやりきる仕組みを、一緒に作っていく支援からはじめています。

Q15: 伸び悩みへの対処法

一原因を明確にし対策する。

まずは何が原因で伸び悩んでるかを、一緒に考えていきます。原因を考えずに問題集を解いてみようみたいに、表面的な解決策から入ってしまうと、的外れになってることがあります。

なので、本当にその人の伸び悩んでる原因を、明確にすることからスタートしますね。例えば学習習慣について話します。なんで学習習慣がついていないか深く考えていくと、何をやればいいのかわかっていないから、勉強もできてない。

そうであれば、やるべきことを明確にすることからスタートします。スマホをいじって全然集中できてないのであれば、スマホを管理するところから一緒にやっていきます。

今の勉強が、将来どう繋がってるのかよくわかってなくても、根本的にモチベーションがないのであれば、一緒に将来のやりたいことや、進路についても一緒に考えていくことからスタートします。

親から口うるさく言われて、逆にやる気がなくなっている状態であれば、保護者様の関わり方と一緒に考えていきます。生徒さんによって様々な悩み、伸び悩みの原因があるので、そこを明確にして、クリティカルに解決できるような施策を打っていく流れです。

Q16: 生徒の合格以外の成長とは？

一小さな成功が積み重なる瞬間。

合格より小さなところで何かができるようになったとか、元々苦手だったこの分野が得意になってきたとか、学習習慣がちょっとずつついてきたとかですね。

定期テストで前よりいい点が取れたとか、そういうちょっとした小さな変化が起きた時はすごい成長を感じます。精神的な面で言うと、メンターの先生に感謝できるようになったとか、親御さんに感謝できるようになったとか、精神的な成長もすごい感じます。

■第4章: 講師力と組織体制(Q17～Q21)

Q17: 講師の採用基準

一最難関大学の素直な人。

採用基準としては、最難関の大学だけで採用している点です。東大、京大総研、医学部などです。最難関の大学生であれば採用されるわけではなく、仕事に向き合うスタンスとか、責任感とか、そういう根本的なところをすごく重視してます。あとは素直な人ですね。

さっきの話でもしましたが、言われたことをとりあえず、ずっと実行できる人はすごく伸びやすいです。あらゆる分野で、フィードバックを受け入れる土台が整っているかは、すごく重視しています。

逆に経験は重視していなくて、東大毎日塾で働く中で、スキルはどんどん身につけていける環境があるので、未経験でも大丈夫です。マニュアルも整ってるし、個別のフィードバック体制もあるし、研修もあります。なので、根本のスタンスを1番重視してます。

Q18: 講師の育成方針

ー講師に任せっきりにならない仕組み。

育成のところで言うと、再現性の高い指導ができるようにマニュアルが整備されていることと、あとはメンター1人にさらに、個別に1人SV(スーパーバイザー)がついています。

人について何かトラブルとか相談があれば、すぐに対応できる塾は、他にはない仕組みだと思います。メンターに任せきりじゃなくても、塾として最適な指導ができるように組織になる仕組みです。

Q19: 良い講師の条件

一人として信頼できる講師。

人として信頼できる人はすごくいい影響を与えます。生徒は誰から言われるかの方が大事なので、同じことを言っているけど、親から言われると聞かないけど、信頼してる先生から言われたら言うことを聞く、みたいなことはよくあるんです。

いい影響を与えるためには、その先生が人として信頼できるような人、生徒から見て尊敬できるような人、そういう講師であればいい影響を与えやすいかなと思います。

Q20: 講師間のチームビルディング

ー運営課題を仕組みで解決している。

さっきお伝えしたSV(スーパーバイザー)という仕組みがあり、個別に相談できる人が1人つきます。SV 1人につきメンターが10何人かいるんですけど、その中にグループがあり、情報交換が行われたり、他の指導事例で良かったことを共有する仕組みがあります。

課が13課ぐらいありますが、グループ全体の中でも情報共有だったりとか、そういう仕組みもあります。マニュアルとか掲示板とかも共有する仕組みはあるので、どんな先生でも質の高い指導ができるようにするという、仕組みになっています。

Q21: 保護者との連携体制

ー区分けされた3つの窓口。

保護者とは主に3つ連携する仕組みがあります。1つが塾専用の問い合わせの窓口があるので、保護者だけでなく塾生も、トラブルがあった時は、運営に直接問い合わせできます。

運営へのお問い合わせは、私も含めた塾長レベルのスタッフが、直接対応しています。2つ目が、メンターと直接やり取りできる仕組みで、保護者専用のグループがあります。保護者専用のグループに生徒さんはいないので、子どもを挟まず、直接メンターに話を聞けます。

3つ目が、生徒さんの指導グループに保護者さんも入るので、希望があれば、指導内容を確認することもできます。このような連携体制で、保護者ともコミュニケーションを取りながら運営しています。

■第5章：教育と未来（Q22～Q27）

Q22：受験の多様化

一家庭だけの対応では実際のところ難しい。

すごい多様性が増えているのを感じるし、実際そうだと思います。受験の方式が多様になっていて、昔は一般受験が大多数でしたが、今は総合型選抜入試とか指定校推薦とか、推薦入試もかなり増えてきて、多様化してるなっていうのは感じます。

一般受験の中でも特に私立とかは、英検利用方式やTOEICとかの資格試験の点数が、英語の試験に換算されます。いろんな入試方式にご家庭だけで対応していくより、わかってる人に聞いちゃうのが、1番成功率を上げるやり方だと思います。

Q23：10年後の教育

一今までの常識が変わっていく。

大学も含めてになりますが、これまでマイナーだった進路選択が、積極的に選ばれるようになっていきます。有名などだとN高とかです。普通の学校だと馴染めないから、通信制高校を選ぶのではなく、積極的に通信制高校のここに行くみたいな選択も、結構多いんです。

教育機関の統合は進んでいますね。高校が統合されたり、塾も統合されたりして、強いところが残っていく、経営的にうまくいってないところは、潰れることが増えていくと思います。

公教育でできることに限りがあるほか、足並みが遅かったりするので、民間にどんどん役割が移っていくと思います。現に東大毎日塾では通信制高校と提携し、学校の座学として、学習計画の作成から個別の学習管理から個別の指導まで、全部対応しています。

でも、多分公立の高校だとこんなことはできないと思います。だからこそ、民間ができるんですね。本来は理想を言うと、それを国が主体となって普及させていければ、ベストかなと思います。

民間で色々チャレンジしている取り組みを、国としても支援したり、国として仕組みの中に取り入れたりとか、そういう連携ができればすごくいいんじゃないかなと思います。

Q24：今後の塾業界

一統廃合が進んでいく。

少子化の影響もあるので塾が統合されたり、スリムになっていくと思います。これまでのただ授業するだけの塾は減ってくると思いますね。いろんな塾長さんとか教育関係者と話していても、そう思います。

昔ながらの授業だけやっている塾や、地域塾はもう経営的にも厳しく、本当に強いところしか、残らないと思います。こまめに学習管理をしたり、個別に密に向き合っていた方が成績が伸びるので、コーチング型の塾はどんどん増えていくだろう。

増えていくというか、強いところがより強くなっていくだろうと思います。全体として、コーチング型の塾が、市場を広げていくのかなと思っています。

少子高齢化はますます進むと思うんですが、生徒1人あたりでかける教育費は右肩上がりなんです。10年後は、さらにその傾向が増して行くだろうと考えてます。

お金をかけてもいいからちゃんと結果が出る、いい教育をしてほしいご家庭がおそらく増えていくかなと思います。だからこそ、そういったニーズに対応できない塾っていうのは、厳しくなってくるだろうなと感じてます。

Q25: 受験を超えて育てたい力

ー目標達成スキルと課題解決能力。

目標達成スキルと、課題解決能力を身につけてほしいなと思います。受験で使った知識が役に立つ人って限られてくる気はしてて、一部が仕事に使われることはあると思うんですが、100%仕事で使ってる人はいないと思うんです。

受験勉強って何の役に立つかという、根本的なスキルとして、何をやるべきかを考えていく力。一緒に計画を立てていく力とか、もし1人でできないんだったら、外部の専門家を頼って目標達成率を最大化する努力をする力とか、実行力の部分が大きいと思います。

決めたことをやりきる力とか、多少嫌なことがあっても継続的に頑張る力とか、トラブルがあった時、つまづいた時は自分で調べたり、わからないことは人に聞きながら進めていく力は、あらゆる仕事で共通して必要な力だと思いますし、身につけてほしいです。

Q26: 東大に行くことの価値

ー今も、この先も価値は高くあり続ける。

まず価値が高いのは変わらないと思います。ただ内容は変わってくると思います。50年前と今とでは絶対変わってますし、今と数十年後っていうのも変わってると思います。でも価値はずっと高くあり続けるだろうなと思ってますね。

東大はある意味これまでの一般的な受験の中で、最難関のトップです。ですが、そのレールでは考えずに、また別のレールの中で自分にとって最適なところを見つけていくという人も、増えてくると思います。

そうすると、1つの価値観だけじゃなくても、いろんな価値観レールで考えていく人が増えていくと思うので、東大に感じる価値っていうのは色々変わってくるんだろうなとは思いますが、でも、ずっと価値は高くあり続けるだろうなと思ってます。

Q27: 保護者・受験生へのアドバイス

ー大学受験は高1から考えることが大切。

高校1年生からの受験戦略としては、大学に行ってから将来何をしたいのかを、考えてほしいですね。そうすると、多分色々見えてきて、志望校はこういうところがいいんじゃないか、見えてきます。

そこが見えてきたら、志望校でどんな入試方式を取っているのかも見えてきますよね。そうすると、総合型選抜とか一般受験とか、いろんな方式があるんですけど、必要な受験戦略が見えてきます。

特に総合型選抜だと、高3になってからじゃなくて、高1のうちからしっかり考えていかないと間に合いません。一般受験も、特に難関大であれば高1のうちからしっかり対策していかないと、間に合わないのが実際のところです。

その辺の感覚がリアルに感じられるので、志望校を考えたり、将来のことを考えると、まずはそこですかね。日頃の勉強どうこうというよりは、将来のことを考えていくといいんじゃないかなと思います。

■第6章：塾のこれからと個人の夢（Q28～Q31）

Q28: 今後の新しい取り組み

ー他塾や学校向けのサービス。

一般的なご家庭に対しての取り組みは、ずっとやってきてることなので、それは継続しつつ、今後は塾や学校と連携して、これまでは届かなかった層に、東大毎日塾の教育を届けていきたいです。

具体的にそういうプロダクトも出しているので、塾向けのサービスや学校向けのサービスも実際今やっているんで、それも広げていきたいというのが新しい取り組みになります。

ただ、実際は東大毎日塾もどんどん伸ばしていくっていうのが、会社としてやっていく取り組みになると思います。既に来てくれているお客さんにも、しっかり価値提供していきます。

Q29: 今後も支持されるために必要なこと

ー現場にひたすら向き合う。

現場にひたすら向き合っていくことです。生徒さんやメンターとか、そこにひたすら向き合っていて、求められているものをちゃんと提供していくことが必要だと思っています。

それがなくなってしまうと、会社がやりたいことをやってるだけで、求められてるものはやっていない形になっちゃうので、そうすると支持されないかなと思います。

Q30: もし教育者でなかったら...

ー開発メーカーの社員として働いていた。

開発メーカーには以前勤めていたので、それをずっとやっていたのかなと思います。ものづくりというか、理系に入って、ものづくりに興味があって。

工学部の機械工学専攻に行ったんですけど、就職も1回それに準じたところに行っていたので、もうそのまま開発メーカーの社員として仕事をしていたんじゃないかなと思います。

Q31: 受験生や保護者に一言

ー個別ケースは無料相談会へ。

今このインタビューで話したことは全体の1割、2割とかそんなもので、ここで話きれないことはたくさんあるんです。どうしてもこのPDFはみんなに見てもらうために、一般的なことしかお話できていないので。

このPDFを見てる人が必要なものって、うちの子だったらどうなんだろうとか、私の場合だったらどうなんだろうと知りたいかなと思うので、そこはもう個別にお話しないとお伝えはできないので、気軽に無料相談会申し込んでもらって、一緒にお話できればと思います。

それこそ、すごい気軽に申し込んでくれたらなと思ってます。

【巻末特典】

無料相談会のQRコード



東大毎日塾の紹介ページURL

- <https://zerojuku-guide.jp/todai-mainichi-juku-review/>
- <https://zerojuku-guide.jp/toudai-mainichi-juku-suspicious/>
- <https://zerojuku-guide.jp/todai-mainichi-juku-fee/>
- <https://zerojuku-guide.jp/todai-mainichi-juku-campaign/>
- <https://zerojuku-guide.jp/todai-mainichi-juku-high/>

渡辺直也・運営メディア「ゼロ塾ガイド」の紹介

ゼロ塾ガイドは、中学生や高校生の受験情報、学習塾の情報をまとめたメディアです。勉強の仕方や進学方法を、分かりやすく解説した記事を掲載しています。また、教育の専門家に無料で質問できるQ&Aコーナーも設けています。

ゼロ塾ガイドは、教育メディアの社会的意義として、子どもたちの学びの機会格差をなくすことを目指しています。SDGsを推進する教育機関や企業へのインタビューを行い、持続可能な教育の取り組みを広める活動にも力を入れています。

今後も、教育と社会課題を結びつけた情報発信を通じて、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

▼ゼロ塾ガイド

<https://zerojuku-guide.jp/>